



生徒数

1年	98名	3学級
2年	106名	3学級
3年	91名	3学級
4組	1名	1学級
5組	2名	1学級
合計	298名	11学級

記憶に残る生徒 — キンモクセイの匂いに想う —

校長 青野 保

校庭の西側に植えられたキンモクセイ（金木犀）の花が咲き、爽やかな匂いが漂い始めました。キンモクセイの花言葉の一つに、「気高い（人）」があります。「気高い」のそもそもの意味は「上品で高貴な感じ」ということで、「品格ある学校」を目指す本校にふさわしい香りだと考えています。

私には、この時期になると思い出される生徒がいます。「明朗快活」とはこの生徒のためにあると思わせるような男子で、授業でも行事でも率先して周囲を盛り上げていました。文化祭・運動会が終了した後のクラスでのこと。私が担任するクラスは文化祭の合唱コンクールでも運動会でも優勝し、クラスは興奮状態にありました。ふと、その男子生徒が「先生、秋の匂いがします」と大きな声で言ったのです。一瞬、教室が静かになり、「キンモクセイだよ」「もう秋かあ…」と他の生徒も声を漏らし始め、それまでの興奮は過ぎ余韻を楽しみながら大きな行事を振り返ることができました。その男子生徒の発言は、恐らく意図的なものではなかったでしょう。しかし、一言で集団のムードを変えたその素直な感性に、リーダーとしての資質の一端を見たような気がしたと同時に、その可能性を伸ばす責任を実感しました。



3年生は卒業に向けて中学生としての完成を目指し始め、2年生は実質的に中心的存在となり、そして1年生も「先輩」となる準備を始める時期を迎えています。感染症の関係で、多くの行事が中止・延期・縮小になっている現状にありますが、それでもそれぞれの資質を磨く機会はたくさんあります。むしろ日々の生活にこそ、それはあると信じています。生徒の皆さんそれぞれに、自分を磨く機会を見つけて大切にしながら成長して行ってほしいと願っています。

校門に立ちながら「いい匂い…」と言いながらキンモクセイの木の横に立ち止まる生徒、それを見て「キンモクセイの花だよ」と声をかける教師の姿を見て、本校なら「記憶に残る生徒」はたくさん育つと想いました。

コロナ禍で…「^{きゃっかしょうこ}却下照顧」(自戒の念を込めて…)

教頭 矢野 天洋

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言が延長となりました。感染症対策が叫ばれ、様々なことに自粛が要求され、大きなイベントも縮小・中止されました。

「今年の夏休みもどこにも行けなかった…」「新人戦もなくなっちゃうし…」と思っている人も多いかと思います。現に、私も、最近までそのように思っていました。

しかし、今の生活がそんなにつまらないものでしょうか。そんなに満足できないものでしょうか。

題名の「却下照顧」(きゃっかしょうこ)の言葉は、禅寺の玄関によく掲げられている言葉です。禅では日常に行っていることの全てが修行であり、日常の生活や身近な足下にこそ真理があると考えます。ひょっとしたら、日々の喜びは、すぐ足下にあるにもかかわらず、それに目を向けようとしないから、手に入るはずの幸福を逃しているのかも知れません。

「脚下照顧」…まず、玄関で履き物をそろえてみましょう。何か幸せな発見があるかも知れません。

(「ふっと心がかかるくなる禅の言葉」(永岡書店)を参考にしました。)